

儒教思想と日本の家族 家族組織と祖先祭祀を中心に

Confucian Ideology and Japanese Families: Family Structure and Ancestor Worship

上野和男

①問題

- ②夫婦中心型家族の構造
- ③祖先祭祀と家族
- ④祖先祭祀の類型と家族類型

【論文要旨】

この報告は、儒教思想との関連で日本の家族の特質を明らかにしようとする試論である。考察の中心は、日本の家族の構造と祖先祭祀の特質である。家族との関連においては、儒教思想は親子中心主義、父子主義、血縁主義を原理としているといえるが、この3つの原理が日本の家族や祖先祭祀の原理をなしているかが、本報告の課題である。

結論として、つぎの3点を指摘できる。第1は、日本には儒教的な親子中心型の家族とは異質な夫婦中心型家族が伝統的に広く存在してきたことである。この意味で儒教的な親子中心主義イデオロギーのみならず、夫婦中心主義イデオロギーも存在してきたのである。第2は、日本の祖先祭祀においては父方先祖のみを祀る形態もあるが、母方や妻方の先祖をも祀る型が広範に存在することである。このことは日本の祖先祭祀が父子主義のみによって貫徹されてきたわけではなかったことを意味している。第3に、日本の家族においては、財産を相続し祖先祭祀を担うのは必ずしも血縁によって結ばれた子供に限定されないこと、また、子供たちのなかでひとりの相続者がきわめて重要な位置を占めてきたことである。

したがって、日本の祖先祭祀と家族は伝統的にも現代的にも儒教的な家族イデオロギーのみによって規定され、存在してきたわけではなかったといえよう。儒教的な家族行動規範は、日本社会の基本的な構造が確立した後に部分的に受容されたのであって、これが全面的に日本の家族や祖先祭祀を規定したことはこれまでにはなかったのである。